

## 学校現場に関わる方々との懇談結果について

### 1 津市総合教育会議懇談会の趣旨

平成27年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部の改正に伴い、平成29年1月、「津市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」を策定いたしました。

この教育大綱で示した3つの着眼点に基づき取り組みを進めるにあたり、教育委員会が、具体的にどのような施策を着実に推進していくべきであるかをしっかりと把握することが重要であることから、平成29年6月下旬から7月中旬にかけて、津市小中学校長会役員、現場教職員の代表、津市PTA連合会本部役員（以下、「各3団体」という。）の皆様と教育委員の懇談会を実施し、さらには、平成29年8月上旬から下旬にかけて津市総合教育会議懇談会を開催し、各3団体の皆様からご意見等をお聴きしました。

### 2 学校現場からのご意見・ご提言の概要

#### (1) 津市小中学校長会役員

ア【子どもと向き合う時間の確保から各学校における業務の精選について】

##### ① 業務の精選への取組

- ・「定時退校デーの設定」等の事務的な無駄を省くような取組は進めているが、様々な各家庭の状況があり、夜昼なしに関わっていかなければならない状況もあり、世間で言う「勤務時間の多さ」になっている。
- ・慣習でやってきた学校行事は、ある程度カットしたり、形を変えたりしながら、また、できるだけ公平性を保ちながら、仕事の量を減らして時間を生み出して、それを教材研究に回す試みを行っている。
- ・職員が精選できる業務というのは、ほとんどないと考えており、教育に「効率的な」という視点はあまりなく、どの行事、どの業務についても、子どもたちの成長に深く関わるものであり、業務の精選というよりは、「自分たちの与えられた時間をできるだけ削りながら、子どもたちとの関わる時間を増やしている」というのが現状である。
- ・業務の精選は、出来ないのことが多いことが現場の悩みで、これを「少しでもできるのは何か」と学校としても、考えているが、思い切って、「保護者にも投げかけていく」ことも一つの手であると思っている。
- ・業務の精選はなかなか思いつかず、教員の「子どもと向き合う時間」は子どもたちが学校にいる間、つまり朝から子どもが部活動から帰るまで、向き合っていなければならない。
- ・教員が本来やるべき業務である「子どもの教育」に直接的に関わることができる時間をどうやって確保するのかが、本務外業務をいかにしてスクラップするのかというところが一番大きいと思う。
- ・時間をなんとか確保する、フリーな時間を作ることを考えた場合であれば、削れる時間はあまりない。給食の時間を削ることはできない。掃除であれば、毎日せずに、2日ぐらいいは短い掃除にすれば、少しは時間を短縮でき、短い時間の積み重ねの中で、確保してい

く。その他、特別な時間割を作って、45分の授業を6限を、1ヶ月に何日か40分にし、その部分を補習学習や子供との面談の時間にすることも考えている。

## ② 特別支援教育・スクールカウンセラー・臨時講師の増員

- ・特別支援学級の子どもたちが、年々増加している中で、現場がそれに追いついていけない部分があり、人的増によって、特別支援のコーディネーターや担任たちの子どもを見る時間が自然に増えると思う。

- ・特別支援学校などで専門的な教育を受けるほうが、良いと思われる子どもも、通常学級の中にたくさん在籍をしている。そうすると、一斉指導の中で、担任が1人でそういった子ども含めての学級経営をやっていくのには、非常に困難な面が出てきてしまうという状況がある。

## イ.【効率的・効果的な学校運営の各学校の取組について】

### ① 校務支援システムへの期待

- ・教員は、毎月、「月末統計」を出し、通知表、指導要録の順に行っており、それが最終的には年度末には指導要録ができると聞いている。例えば教務、保健、生徒指導の仕事で個別に作成していたが、校務支援システムにより1つ作れば、一括で作成されると聞いており、便利になると期待している。

### ② 会計処理の方法

- ・家庭によっては、子どもに現金を持って来させる場合があり、その会計処理の部分を無くしていけたら子どもと向き合う時間の確保につながっていくのではと思う。

## (2) 現場教職員の代表

### ア.【総勤務時間の縮減について】

#### ① 会計処理等の事務負担の現状

- ・各学校の代表に、1週間の勤務についてのアンケート調査を行ったところ、1日平均4時間ぐらい残業しており、その内容は、教材研究・授業準備・生徒指導・保護者の対応等の家庭訪問、テストの採点等もあるが、報告書の作成や会計処理といった事務処理が主に挙げられていた。

- ・会議時間の短縮や定時帰宅の声かけなどに努めており、今後もしもできる事を探して実行していくが、事務仕事、会計業務が多いことが現状である。

#### ② 学校徴収金の公会計化

- ・給食会計に関しては、公会計化されれば状況は随分変わってくると思う。お金をもらいに行くのは担任にとっては精神的にきつい部分がある。

## ③ 会計処理の煩雑さと直接徴収の負担

・口座引き落としが出来なかった家庭の子どもが給食費・学級費・PTAのお金を全部一緒に朝持ってきて担任に渡すときがあり、必ずその日のうちに入金しなければならないため、負担となる。

・中には、子どもに必要なお金を持っていても家の方が使ってしまう、支払いに応じてもらえない家庭もあり、このようなケースの徴収業務も負担である。

## ④ 就学援助金等の校長預かり制度のルール化

・就学援助等のお金を、了承を頂いた上で校長預かりという形にし、そこから必要な費用を引き落とせるようにしている家庭もあるが、了承いただけない家庭もあり、ルール化されれば説明がしやすくありがたく思う。

## ⑤ 土日の部活動の縮減

・部活動の工夫で勤務時間の縮減が進むことが考えられるが、教員の中には、もっとやりたいと思う人もいる。しかし、教員自身にゆとりがないと子どもたちへの指導も出来ず、また、子どもたちの疲労という視点も含め、休養という考えも大分浸透していると思う。

## イ.【英語及び道德の教科化に係る対応について】

## ① 英語の時間数確保に係る課題

・英語の時間数が増えるがその時間数の確保はどうやって捻出すれば良いのか。国からは他の授業を削るとか隙間の時間を使うとか提案があるが、なかなか簡単にはいかないのか。どうするのか。

## ② 学習教材の充実及び新学習指導要領への対応

・新学習指導要領に対応する教材は使い勝手の良いものを望む。

・今回の新学習指導要領は内容が大きく変わってきており、条件整備として予算面で措置を講じてほしい。

## ③ 教科化に伴う教員への負担

・小学校の教員の中には英語の発音等に自信のない人もおり、子どもに英語を教えることに対する不安を感じている。

## ウ.【その他】

## ① 1クラス定員の引き下げ及び統一化

・小学校1・2年生は1クラス35人になっていて、3年生でそれが解消されたとき、独自学級として問題が起こっており、6年間通じて1クラス35人という一定の定数となるようにしてほしい。

## ② 教員現場の人出不足

・グレーゾーンと言われる子どもに対し、学力面や集中力が足りていないなど認識したうえで考えて対応しているものの、立ち歩き・飛び出し・暴力・暴言を行う子どもが何人かいるクラスもある。その子どもに対して、何か事を起こしたら教員が対応しなくてはならず、対応する際に、職員室に応援を求めているのが現状で、支援員の支援がほしい。

## ③ 人事異動の早期発表

・人事異動の時期が3月末のため、幼稚園現場からは、「関わった子供達にさよならも言えないまま異動しないといけない」という声が毎年切実な声として出ており、人事異動の時期を変えられないか検討して欲しい。県職員の教員人事はもっと早い時期に出ており、教員委員会で人事を進めていることから、教育委員会は独自で早い時期に発表出来るようにしてほしい。

## (3) 津市PTA連合会本部役員

### ア.【学校と家庭の連携について】

#### ① ノーメディアデーの取組の推進

・今年度夏頃よりPTAと校長の連名で月1回のノーメディアデー（その日1日はスマートフォンなどを触らない）の取組を始めた学校区がいくつかあるが、なかなか浸透していかないので、教委の「ケータイ安全利用宣言」等とリンクさせて津市教育委員会として進めていく必要がある。

#### ② 学校と保護者の関係改善

・先生に任せきりにする保護者もいれば、家庭での教育を重視する保護者もいるなど、考え方に温度差があるなかで、先生が保護者に遠慮している部分がある。問題が発生した時に、学校の先生と保護者が一緒になって連携していけるような普段からの関係づくりが必要である。

・先生とPTAに距離がある学校もあるようで、PTAからの意見に対して学校側で対応をしておくのでという返事のみで、連携が取れていない学校があるとも聞いている。

#### ③ 学校施設の整備

・ガラスに飛散防止の処理を行ってほしいと学校側に相談したところ、PTAで工面してほしいと報告を受けた。予算が学校側にどれだけのものかも分からず、どこまでのものを学校側とPTAが区分けをして購入していくのかがはっきりしていないのが現状である。

#### ④ 地域と学校、PTAの連携

・地域の方々は何かの形で学校との関わりや力になりたいと思っており、学校やPTAから働きかけることが大事である。

イ.【英語の教科化について】

① 英語教育の専科教員について

- ・みさとの丘学園では、授業は中学校の英語の教員とALTの方に英語の授業を教えてもらっており、子どもから英語の授業が楽しいと聞いた。
- ・専門の先生が英語を教えるのかどうか教えて欲しい。

② 小中学校で教える英語について

- ・学校間で英語を教える人によりレベル差が出ないようにしてほしい。
- ・小学校で英語の授業が始まることにより、今後、中学校ではもっと高いレベルの授業が行われるのかが知りたい。

③ 英語教育先行実施の情報発信について

- ・保護者は、津市が早く英語が始まることを知らないのではないか。英語が授業化になることを発信してほしい。